

学研フードテック共創プラットフォーム 設立趣意書

食をめぐるのは、地球規模の気候変動による食料生産への影響が顕著となり、生産や飲食の現場における担い手や労働力の不足、各種資材費や燃油価格の高騰が経営に影響を及ぼしております。大量の食品ロス発生も問題となっています。

また、ライフスタイルの変化による中食需要の拡大や健康志向の高まり、環境負荷低減や倫理的消費（エシカル）に対する認知度の向上等、消費者志向は多様化しています。

一方、人口増加等による食料需要の増大や温暖化対策のための温室効果ガス削減が世界的な課題となっており、SDGsの観点からも食に係るグローバルな課題の解決が求められています。

こうした食に係る課題解決の対策として、「食」×「先進テクノロジー」である「フードテック」への期待が高まっています。

「フードテック」については、生産分野におけるスマート技術や植物工場、食品加工分野における代替肉や藻類食品の開発、飲食・調理分野における加工配膳ロボットや美味しさと健康への科学的追求、流通・販売分野におけるAIの導入やスマートフードチェーンの構築等、範囲は多岐にわたっていますが、研究や開発を進める上では部分最適でなく全体最適となる視点が必要です。

また、最先端技術によって世界的な食に係る課題解決へ貢献するとともに、その成果がそれぞれの地域や生活者へ還元されることも望まれます。

けいはんな学研都市としては、これまでから「伝統と革新」「文化と環境」を大切にしながら、「次世代スマートシティ」「グローバル・オープンイノベーション拠点」を目指して世界的な課題に取り組んでおり、「フードテック」についてもこれらの特長を活かして、けいはんな学研都市ならではの取組を進めることができたらと考えております。

そのため、大学や研究機関、民間企業や行政等の構成員による「学研フードテック共創プラットフォーム」を設立し、「Foodtech for Well-being」の考え方を大切にしながら、情報交換や交流を行い、スタートアップの設立機運を醸成し、共同による研究や企画を進めてまいります。

また、最先端のフードテック関連企業等の集積拠点「けいはんなフードテックヒル」の形成につなげてまいります。

今後は、国内はもとより海外の大学や研究機関、民間企業や行政等が「産学官」の世界的なネットワークを形成し、連携・研究チームを組成してオープンで幅広い情報交換やコラボレーションを行うことにより、イノベーションを推進して食に係る人類の課題解決に貢献してまいりますので、趣旨に賛同いただき、プラットフォームへの参画を広く呼びかけるものです。

2023（令和5年）年9月

（公益財団法人）関西文化学術研究都市推進機構